

# すいか割りルール

(日本すいか割り推進協会認定版)

## 第1条 (競技場所)

1. 競技場所は、どこでも楽しめるスポーツですが、できれば『砂浜』又は、『芝生の広場』が最適である。
2. すいかと競技者(割る人)の間の距離は、5m以上7m以内とする。

## 第2条 (用具)

1. 棒は、直径5cm以内、長さ1m20cm以内の棒とする。
2. 目隠し用として、手拭またはタオルを準備する。
3. すいかは、『日本国産すいか』を用いる。

## 第3条 (競技者)

1. 競技者はすいかを『割る人1名』と『サポーター複数』で1組とし、キャプテンを決める。『サポーター』は人数に制限はないが、『割る人』に対して『アッチだ』『ソッチだ』と的確なアドバイスを出さなければいけないので、事前に自分のサポーターの声を認識しておくこと。

### 2. 審判員

審判員となるには、すいかが大好きであることを条件とする。また、公正な道徳心を持つ健康な人であり、特に以下の設問に3問以上答えられる人とする。

- ① すいかの一番甘い部分はどこか？

答)「真ん中の部分」と答えれば正解。

- ② すいかの水分はどのくらい？

答)「85%~91%」の範囲であれば正解。

- ③ おいしいすいかの見分け方は？

答)シマ模様がはっきりしていること。

手のひらで軽いたとき、やや濁った音がする。などであれば正解。

- ④ すいかの種ってどのくらいあるか？

答)「400~500粒」の範囲であれば正解。

- ⑤ すいかの原産地は？

答)南アフリカ、またはカラハリ砂漠周辺のサバンナ地帯であれば正解。

## 第4条（競技の開始）

1. 審判員は、距離と用具を確認する。
2. 割る人の目隠しを確認する。この時、相手チームのキャプテンを同席し了解を得る。
3. フォーメーションローリング(スタートする時の回転)をおこなう。  
回転方向は右回りで、回転数は5回と2/3回転とする。

## 第5条（競技の進行）

1. 競技者（割る人）の持ち時間は1分30秒とする。  
審判員は、競技終了30秒前と10秒前に報告する。
2. サポーターからのアドバイスにおいて、以下の行為を禁止する。
  - ① 競技と関係のないアドバイス
  - ② 競技者を中傷するような言動
  - ③ スイカの真後ろに立って「私の声のする方へ」という指示
3. 1人の競技者が終了したら、第6条により勝負の判定をおこなう。
4. 勝負の判定が終わったら、次に、相手チームとスムーズに交代する。

## 第6条（勝負の判定）

1. すいかに当たらなかった場合、時間内であれば3回まで棒を振る事ができる。
2. 以下の点数表を参考に審判員が点数をつける。

状態と結果	点数
◆空振り	0点
◆すいかに当たった	1点
◆すいかにひび割れができた	2～4点（ひび割れの程度による）
◆すいカの赤い果肉が見えた	5～10点

## 第7条（後始末）

1. 勝ったチームは、すいかを食べる権利があり、負けたチームは、残ったら食べることができる。
2. 競技場所は、勝負の勝ち負けに関係なくきれいにしゴミは持ち帰ること。